

講演申込書

(A) 欄はそのままプログラムの原稿になりますので正確にご記入下さい

講演申込 (○で囲う)										受付番号	
1.高温物理化学・プロセス 2.製鉄 3.製鉄・製鋼共通 4.製鋼 5.計測・制御・システム技術 6.分析評価・解析技術 7.加工・鋼構造 8.表面技術 9.萌芽・境界領域 10.材料の組織・性質										協会記入	
講演申込 大分類番号	特記事項	勤務先 (略称で記入)	氏名(講演者○印) 会 員 番 号	勤務先 (略称で記入)	氏名(講演者○印) 会 員 番 号	勤務先 (略称で記入)	氏名(講演者○印) 会 員 番 号				
講演申込 中分類番号											
今大会における 連報の有無	有・無										
連報の申込 分類番号											
講演 番号											

注 1) プログラムに掲載する共同研究者は 6 名以内とする 注 2) 勤務先略称の記入例……東大工, 住金鹿島, 新日鉄先端研, NKK京浜, 川鉄鉄鋼研, 神鋼鉄鋼研, 金材技研

(B) (B)欄はそのままデータベースの原稿となり、(特)日本科学技術情報センター(JICST)の JOIS 文献データベースに人力され、研究情報としてオンラインにより内外に流通することになりますので、裏面の抄録の執筆要領に沿って、明確にご記入下さい。(注意 1.) 著者名は正確にフルネームでフリガナをつける。(注意 2.) 著者が 6 名を越える場合には別紙に記載して添付する。

受付 年月日	受 番	付 号	講演 番号	著者勤務先	フリガナ 氏 名	講演 先 ・連 絡 所 属 先	干 電 話	-	-	内 線
標 題										
デ ー タ ベ ース 入 力 原 稿 旨										

抄録の執筆要領

- ①抄録の長さ：150字程度の日本語抄録（表の原稿用紙は165文字）を作る。
- ②抄録の機能：原記事を読まなくても大体的内容が分かり、原記事を読む必要があるかどうかを判定できること。
- ③抄録に盛り込む内容：(1)研究論文の場合は、目的、主題範囲、方法論、結論（要素を省かず）
(2)総説、展望、解説の場合は、対象、目的、主題範囲、内容、特徴
(3)紹介記事の場合は、対象、内容、特徴
- ④抄録の書き表し方：(1)簡潔で明確な表現をする
(2)正確な日本語で表現する
(3)話し言葉でなく、書き言葉で簡単明瞭で、一般に受け入れやすいものを使う
(4)著者自身の関与を表す場合は、我々が…、著者が…とする
(5)同一抄録中の用字、用語は統一する
(6)図表・数式番号の引用は禁止
(7)能動体を使用する

(8)抄録中の語句の省略法

- 1)標題中にある長い語句は、抄録中では繰り返し返し使用せず、“標題の”とか“標題化合物”などの語を使用して重複を避ける。
- 2)抄録中の長い語句を再三使用する場合は、最初に出てきた語句を日本語の正式名称または語句として、その後には()で囲んで紛らわしくない記号または略語を与え、二度目からはその記号または略語のみで表現する。
- (9)外来語の学術用語の表記は慣用されているカタカナ表記があればそれを使用するが、それ以外は原語を使用するか、または英字に翻字する。ただし、日本語にした方が分かりやすい場合は適切な日本語に訳し、原語を()で表記する。
- (10)欧字表記が慣用されている用語はその欧字表記を使用する。
- (11)欧字の略語、略称、略記号でその分野で一般的に慣用されているものはそれに従うが、慣用されていないかその恐れのあるものはフルネームの日本語訳が原語を()で囲んで添える。

◎ データベース入力作業の誤入力防止、工程作業能率向上のため、手書き文字はできるだけ丁寧に、明確な文字で書いて下さい。